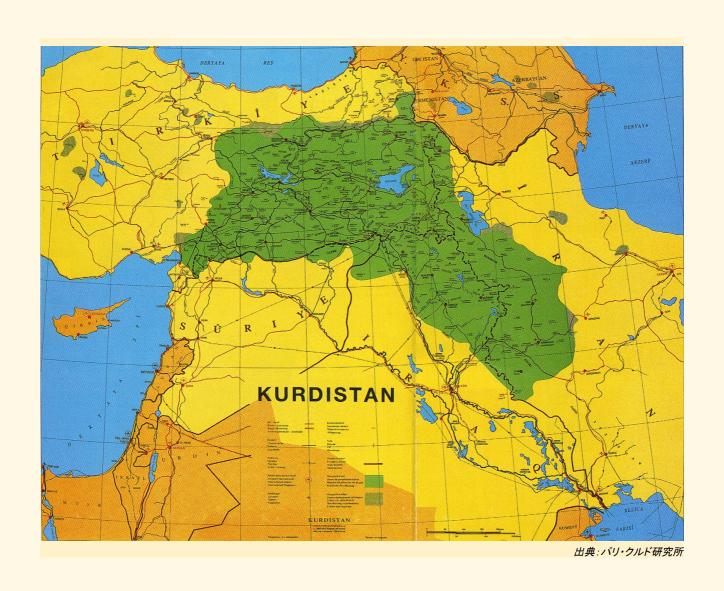
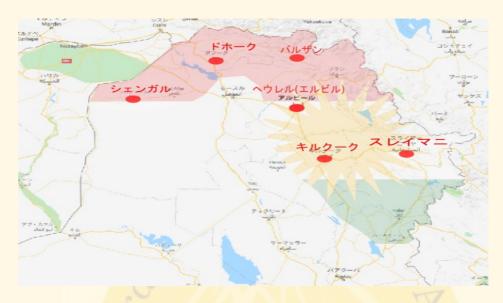
2018年12月クルディスタン報告書

Reporta Kurdistanê Sermawezê 2018'ê



南クルディスタン(イラク北部クルディスタン地域)

Başurê Kurdistanê



政治動向

・ネチルワン体制

マスード・バルザニが、昨年クルディスタン地域政府(KRG¹)大統領の座から退いて以来初めて、正式に後継者がアナウンスされた。クルディスタン民主党(KDP²)は、KRGの次期大統領に現首相のネチルワン・バルザニを、次期首相には安全保障評議会委員長のマスルール・バルザニを指名した[3日、ルダウ]。クルディスタン愛国者連盟(PUK³)もこの指名を尊重すると発表した[3日、ルダウ]。一方で新世代は KDP 以外の勢力が KDP の独裁を防ぐべきだと声明を出しバルザニー族による権力の独占を警告した[3日、ルダウ]。マスード・バルザニは既に昨年大統領職を辞任していたが内外の問題があり後継者指名には至らなかった。5月のイラク総選挙で国内第四党になり中央政治でも存在感を放つようになり、9月末の選挙で勝利したことが後継者指名を後押しした。先月 KDP 政治局のファジル・ミラニはテレビの取材に対し、ネチルワンが KRG の指導者であるのは「論理的に必然」と発言した。KDP、KRG の要職を長く務め経験を積んでいることが、KDP 内部だけでなく野党、また一般民衆にも支持される要因だと指摘した。政府、党内での経験は身内には通用する論理ではあるが、KDP に関係のないクルド人に対しどれほどの説得力を持つか疑問である。前大統領で叔父のマスードは父親ムラー・ムスタファに従いクルド人独立戦争に従軍した。父親には遠く及ばないにしろクルディスタン独立運動の英雄であることは間違いない。実力で現在の地位を勝ち取っ

英語名 Kurdistan Regional Government の略。 クルド語では、 Serokayetiya または Hikûmeta(前者がクルド語、後者がアラビア語で政府の意) Herêma(地域) Kurdistanê。 参照: クルディスタン地域政府大統領府公式サイト

² 英語名 Kurdistan Democratic Party の略。 クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistan を略して PDK。 また単に Partî とも呼ばれる。

³ 英語名 Patriotic Union of Kurdistan の略称。クルド語では、Yekîtiya(統一) Niṣtmanîya(民族主義者) Kurdistan を略して YNK。また Yekîti とも呼ばれる。

た父、祖父に対しネチルワンは、丁度江戸幕府三代目将軍徳川家光のように生まれにより指導者の地位を約束された存在である。軍功もなく父時代の縁故政治の延長と見られては、民心の離反は避けられない。 親族間の権力移譲において隣国シリアの例は参考になる。ハーフィズ・アサドが死去し息子のバッシャールが後を継ぐことになった時、バッシャールは父時代の強権体制継続のイメージによる閉塞感を打破する ためリベラル色を打ち出した。そして実際に自由化の改革を行った。シリア内戦における勝利をほぼ勝利に導いたことはその威信をさらに強めた。

クルディスタン地域内外のクルド人にはネチルワンをバルザニ家の威光を笠に着た独裁者だと嫌う人が多い。KDP が中央政治にまい進し我が世の春を謳歌する反面、昨年の独立投票を巡る騒動以来クルド人には閉塞感が漂う。父、祖父の時代とは違うクルディスタン地域政治を打ち出すことが、イラク領内のクルド人の指導者としてネチルワンに課せられた最初の試練である。

・KDP—PUK 同盟と野党勢力

ネチルワン率いる KDP 代表団とコルサト・ラスル率いる PUK 代表団は 11 日、PUK の要請でヘウレルで会談を行った[11 日、ルダウ]。会談後の共同記者会見において友好関係の確認と KRG 新内閣成立のため協力することを確認したと発表した。キルクーク問題を除き個別具体的な内容に触れることはなく、両党の友好に関する言辞が大半を占めた。とはいえ PUK がとりとめのないおしゃべりをするために、ネチルワンへの会談を求めたとは考えにくい。野党が KRG 参加において相応の権力分配を求める中で、PUK の地位を掘り崩すような決定をしないよう求めたと考えるのが自然である。

KDP は 12 日、ゴランの代表を迎え新内閣におけるポストについて協議した[12 日、ルダウ]。会談後 KDP 政治局メンバーはゴランは KRG 新内閣に参加すると発言した。ゴランは副首相、副大統領の地位を要求したとされる。PUK からポストを奪うつもりではなく、副首相職を複数にするという案に賛意を示し、その上でそのうちの一つを要求したと考えるのが妥当だ。ゴランは選挙直後に結果を否定する声明を出したりと野党勢力の中心になる構えを見せていた。KDP が大勝し野党がすべて結集しても対抗できず、また KDP もまた新内閣成立のために野党の協力を必要としたことから妥協に転じた。

・予算をめぐる攻防

KRG は予算配分の割合が従来の12.67%から14%に増加すると見込んでいる[9日、ルダウ]。予算配分に対する前向きな見方が醸成されるのには KDP がイラク総選挙で躍進したことが大きい。ペシュメルガへの給料支払いや公務員の給料遅配の根絶による政府の安定化を見込んでいるという。マスード・バルザニ他 KDP 指導層は15日、イラク議会の訪問団を受け入れ会談を行った[15日、クルディスタン24]。マスードが「生産的」な会談を行った後、マスルールとも会談を行った。その中でマスルールは国家予算における正当な配分を要求した。クルディスタン地域の勢力の協力無しには新政権を樹立できないイラク中央は予算配分に譲歩する可能性は高いと言える。

イラク政治と直接に関係のない外的要因がクルディスタン地域の予算配分を憲法が保証するレベルまで回復することを妨げるリスクになる。KRGと同様イラクの国庫は原油価格に左右される。イラク石油相タメル・ガドバンは、オペック会議に先立ち原油価格維持のため関係各国と協力すると発言した[4日、クルディスタン 24]。オペックと非加盟国を東ねるロシアは7日原油価格維持のため減産で合意した[7日、ロイター]。その後もイランのザンガネ石油相が、イランは減産をしない方針であると発言する等合意の履行には不安定な状況が続く[13日、ロイター]。

予算不足はクルド人のアイデンティティ維持の危機にもつながる。ヘウレルの現地政府関係者は 12 日、市中心部にあるヘウレル城修復のための予算が不足しこのままでは崩壊の危機に瀕すると発言した[12 日、クルディスタン 24]。KRG はイラク中央政府に上述のような「不可抗力」の事情があっても譲歩を許すことのできない状況下にある。

マイノリティの入閣

エジーディの宗教指導者は9日、ネチルワンに対し新内閣においてエジーディのポストを用意するよう要求した[9日、ルダウ]。次期首相のマスルールは歓迎する姿勢を見せた。クリスチャン、テュルクメン勢力それぞれが次期KRGにおいて、副大統領、副首相、議会議長の地位を獲得することが決定した[15日、ルダウ]。クルディスタン地域は宗派対立吹き荒れるイラクの他地域よりマイノリティ保護を行っているとみられてきた。この決定により名実ともにイラク国内のマイノリティの安住の地の立場を固めることができる。イラク中央にも大統領はクルド人、首相はシーア、議会議長はスンニという宗派、民族間のポスト分配措置がなされている。マイノリティの利害保護のため上手く機能すれば、シーア勢力が他を圧倒し他宗派、民族を抑圧する傾向にあるイラク中央政府に対し道義的な優位性を持つ意義は大きい。KDPの党利党略に資する動きであることも見逃せない。PUKは副首相職を増やすことには反対の立場だ。KDPは力を持たない少数派にポストを与え傘下勢力にする一方、権力を分散させることでPUKや野党の力弱める狙いもあると見られる。KDP一強体制は野党勢力の懸念するところであるが、マイノリティへの優遇措置には反対し難い。

キルクーク問題(Kerkûk)

アラブ化政策の推進

クルド人、テュルクメンの農民がアラブ系入植者による土地の簒奪に抗議の声を上げている[4日、ルダウ]。 抗議者たちは入植者を人民動員軍所属の民兵であり、彼らの背後にはバドル軍団がいると主張している。 バドル軍団の指導者ハディ・アメリはイラク政界の大物であり、先月マスード・バルザニとも会談を行った。 中央における政治活動によってある程度緩和できる可能性があることを示す。

イラクのアラブ人は一般的にパレスチナ人に同情的であり、イスラエルによる西岸への入植地建設に反対する。中央政府が指名した新知事ラカン・ジャブーリはイスラエルより悪辣なアラブ化政策を実施している。

実際は過去サダム・フセインがイラク南部から多くのシーア・アラブ住民をキルクークに移住させたように、アラブ系住民の入植は歴代イラク政権の常套手段なのである。イスラエルと友好的な KRG はこのアラブ人のダブルスタンダードも指摘していく必要がある。

市政評議会を巡る政治劇

キルクーク評議会の議長レブワル・タラバニは<u>イラク中央司法により国庫からの不正支出を巡る疑惑で訴</u>追された[27日、ルダウ]。レブワルは現在ヘウレル在住であり、欠席裁判で一方的に有罪とされた。直ちにこの疑惑を否定し政治的動機による裁判だと激しく非難した。マスード・バルザニも裁判の政治性を批判する声明を出した。レブワルは<u>キルクーク評議会に新議長を選出する動きがある</u>ことを明らかにした[31日、ルダウ]。レブワルに対する欠席裁判と新議長選出を巡る動きは一貫した政治的動機に導かれている。評議会を正式に中央政府の意に沿うように改造することである。レブワルはシーア民兵が支配するキルクークから避難したのであって法的地位は失っていない。そこで政治的茶番が仕掛けられたと考えらている。

シェンガル (Şengal)

道路の再開通

16日、昨年のキルクーク騒動の折から人民動員軍に占領されていたドホークとシェンガルを繋ぐ道路が1年ぶりに再開通された[16日、ルダウ]。ノーベル平和賞を受賞したナディア・ムラドは再開通前の14日特別な許可により故郷への訪問を許された[14日、ルダウ]。シェンガル市長はシェンガルをクルディスタン地域に組み込むと宣言した[25日、ルダウ]。キルクーク同様の帰属問題の他に同じクルド人同士の対立関係も横たわる。シェンガルの山地はクルディスタン労働者党(PKK⁴)の指導で設立されたシェンガル防衛隊(YBS⁵)の支配下にある。バルザニー族が取り仕切る KDP は部族主義と戦ってきた PKK を敵視してきた。ISの攻撃に曝されたエジーディは KDP のペシュメルガが逃亡した後山地を中心に避難民を守った PKK を信用しており、KDP の影響下に入ることは望まない。PKK はシェンガルを形式的とはいえイラク中央政府の勢力圏に入れることで、KDP とトルコの攻撃に対抗している。

・人民動員軍の懸念

シェンガルへの道路が再開通しても人民動員軍を巡る懸念は終わらない。IS の脅威から逃れたシーア住民の帰還が活発になり聖廟の再建も進んでいる[31日、ルダウ]。現地のシーア聖職者は今後懸念される宗派対立の懸念についてエジーディやスンニとの歴史的に共存してきたことに触れた。住民同士の宗派対立は無くともシーアの存在を理由に人民動員軍がプレゼンスを高めようとすることが問題を引き起こすのである。人民動員軍の一部バドル軍団は24日、エジーディのペシュメルガを襲撃し30人以上を拘束した[24

⁴ クルド語名、Partîya(党) Karkerên(労働者たちの) Kurdistanê(クルディスタンの)の略。日本のメディアで散見される「クルド労働者党」の呼称は誤り。 5 クルド語名、Yekîneyên(部隊) Berxwedana(抵抗) Şengal(シェンガル)の略。

日、ルダウ]。彼らは後に解放された。翌 25 日には、エジーディのペシュメルガの一団に銃撃を加えた[25 日、ルダウ]。上述のシェンガル市長の発言に呼応した威嚇行為であった。

トルコの侵略行為

・自由運動騒動の余波

PUKシェンガル事務所は1日、前日にPKKに近いエジーディ自由民主主義党(PADÊ®)の支持者らが事務所に詰めかけ抗議活動をしたと発表した[1日、クルディスタン24]。彼らは事務所の前を陣取り旗を掲げ抗議をした他、PUK党旗を下すといった破壊活動とも取られる行動をした。PADÊ 広報は抗議運動の参加者たちと連絡が取れないと発表した[1日、日報]。またPADÊ は党首自らPUK事務所へ赴き支持者が問題を起こしたことを陳謝したという。

PUK は同胞を犠牲にすることで得られるはずの対価を得ることができなかった。トルコはスレイマニ国際空港からのトルコ行き便の早期再開を否定し3ヵ月延期すると発表した[24日、クルディスタン24]。トルコ外相チャブシオールは PUK とゴランが PKK への支援を続けていると言いがかりをつけたのである。 PUK は PKK 支部があるヨーロッパと同じく、治安を脅かすことのない各勢力の政治的自由を確保しているだけである。 自由運動の事務所を閉鎖することでトルコの要求に応えるポーズをとったに過ぎなかった。

▶空爆により自らの首を絞めるトルコ

トルコは今月もイラクの領空侵犯、主権侵害を続けた。トルコ軍は14日、過去一週間で21人のPKK戦闘員を無力化したと発表した[14日、アナトリア通信]。イラク政府は在イラク・トルコ大使を召喚しトルコによる主権侵害を抗議した[16日、NRT]。トルコ政府報道官はイラク国内における空爆はトルコの安全保障上やむを得ない措置であり、イラク政府はPKK 根絶に向け努力すべきであるという一方的主張を展開した。イラク政府がPKK 掃討に協力しないのには、PKK がバルザニの勢力を抑えるのに使えるという面もあるが、トルコによるモスル、キルクークの併合を警戒していることは大きい。ケマル・アタテュルクはモスルを石油利権を求めたイギリスによりイラクに編入されたと主張し、いわゆる「解放戦争」の過程でモスル侵攻も検討していた。しかしその後欧米傾倒外交を遂行するためにモスル問題を棚上げした。エルドアンはこの伝統をかなぐり捨てて東方拡張政策を進めており、イラク政府、国民の憂慮するところとなっている。この空爆はシェンガル地域の村落が対象であったことがさらにトルコの道義的立場を貶めた。国際的に知名度の高いナディア・ムラドが動いたからである。16日、彼女はドーハにおける国際会議にてトルコ外相チャブシオールと会談し、シェンガルに対する空爆停止を要請した[16日、ルダウ]。チャブシオールは会談後のツイートにおいてこの件に触れず、ただPKKはイラクにおいてエジーディ、アッシリア人、クルド人を抑圧していると事実と異なる政府の立場を繰り返した。

⁶ クルド語名、Partiya Azadî(自由) û Demokrasiya(民主主義) Êzidiyan(エジーディたちの)の略。

ロジャバ (西クルディスタン、北シリア)

Rojavayê Kurdistanê



トルコによる侵略の危機

・ユーフラテス川東岸侵攻の行方

トルコは国境地帯に大量の重火器を輸送しいつでも侵攻できるよう準備を始めた。エルドアン政権寄り新聞によれば13日の時点で、既に1万4千人もの大部隊が国境に集結している[13日、新たな夜明け]。人民防衛隊(YPG⁷)報道官ヌリ・マフムードはクルド系メディアの取材に対し、トルコ侵略の危機を真剣にエルドアンの脅威を深刻に捉えていると発言した[12日、ルダウ]。アメリカ国防総省報道官も、トルコに軍事行動を行わないよう求めた[13日、ルダウ]。とはいえ本当に作戦開始をしてもアフリンのように上手くはいかないと釘を刺した。ロシアはトルコとの合意によりアフリン侵略を許したものの、有志連合とトルコの間には同様の合意や取引は存在しないからである。ロシアはクルド側へ撤退を要請し、アサド政権を揺さぶり国土防衛のためタル・リファットまで進駐したアサド政権寄り民兵「祖国防衛隊」のアフリン入りを阻止した。飛び地のアフリンはともかくとして北シリアの中心であるユーフラテス東岸地域への侵攻は、仮に大国の要請があれどクルド側が無抵抗であることはない。シリア民主軍(SDF®)の将軍マズルム・コバニは、ロイターの取材に対しトルコが侵攻を開始したら反撃すると明言した[14日、ルダウ]。そうなればもはやシリア内戦はトルコ対シリアの戦争に転化する。シリア内戦に関与してきた各国、また国際社会としてもそのような惨事を望まない。

⁷ 人民防衛隊のクルド語、Yekîneyên(部隊) Parastina(防衛) Gel(人民)の略。

⁸ シリア民主軍の英語名 Syria Democratic Forces の略。彼ら自身はアラビア語名 Quwwāt(部隊) Sūriyā(シリア) al-Dīmuqrāṭīya(民主的)の略 QSD をよく用いる。またクルド語では Hêzên(「カ」すなわち軍の意) Sūriya(シリア) Demokratîk(民主的)を略して HSD と呼ばれる。

クルド側はトルコの脅威を利用して北シリアの自治領化を進めようともしている。北シリア統治の最高意思決定機関であるシリア民主評議会(MSD⁹)イルハム・アフマドとリヤド・デラル両共同議長は21日、フランスにおける国際会議出席後記者会見を開き、北シリアに飛行禁止区域を設定するよう求めた[21日、ユーフラテスニュース]。

北シリア統治を主導する民主統一党(PYD¹⁰)は、機会主義的な部族勢力の統制も怠らない。MSD はラッカ 北方のアイン・イッサで現地の有力部族を招いたカンファレンスを開催した[27 日、PYD]。MSD 共同議長の アフマド自らトルコへの抵抗と団結を訴えた。

SDF はトルコ軍の攻勢に耐えることができるか。SDF の仇敵 IS のトルコに対する奮戦ぶりを思い出す必要がある。昨年2月まで続いたアルバーブ攻略戦において、トルコ軍はその拙劣な指揮と IS の巧みな抵抗により多大な損害を出した。無思慮に突撃を繰り返すトルコ軍に対し、IS は反体制派から横流しされたアメリカ製対戦車ミサイルを駆使し多くのトルコ軍装甲車両を破壊したのである。



その中にはこれまで無敗とされてきたドイツ製レオポルド戦車も含まれてきた。いくら強力な兵器を揃えようとも拙劣な作戦の前では簡単に撃破されることを改めてクルド人に示してしまったのだ。

アメリカの撤退

トランプは 19 日、突如シリアからの全面撤退を開始したと発表した[19 日、ロイター]。既に IS は完全に打倒されておりシリアに留まる理由はないとした。2 日前にはエルドアンがいつでもユーフラテス川東岸地域侵攻を開始できると発言しており、抑止力としての米軍駐留が正に必要とされる緊迫した情勢の中での発表であった[17 日、アナトリア通信]。

トランプはエルドアンとの電話会談にシリア撤退を決定したとされる[22 日、アナトリア通信]。トランプは「ISを打倒できるか?」とエルドアンに問い質したところ「善処する」と答えたと報道された。トルコに IS 掃討は絶対にできないことを忘れてはならない。トルコが ISを支援し利用してきたことはもはや周知の事実であるが、一方で IS もトルコの手の内を知るようになったのである。そのため「ユーフラテスの盾」作戦で攻めや

⁹ クルド語の正式名称 Meclîsa(アラビア語由来で会議の意) Sûriyeya(シリア) Demokratîk(民主主義)の略。英語名 Syrian Democratic Council's の略称 SDC も使われる。 10 民主統一党のクルド語、Partîya(党) Yekîtiya(統一) Demokrat(民主)の略。

すいジャラブルスを除き苦戦を強いられたのである。結果的に同作戦は要衝アルバーブを陥落させ「成功」ということになっている。これは当時の IS の支配地を SDF が包囲していたことに大きく助けられた結果である。トルコが SDF—YPG を掃討すれば IS に敵はいなくなり北シリア全域が IS の作戦地域となる。トルコの最大の弱点は SDF に代わり得るシリア支配の基幹となる勢力を傘下に有していないことである。スルタンムラト旅団、ハムザ師団、東方の自由民といったトルコの傭兵として活動するジハーディスト達は相互に反目しあっている。アフリンで顕著なように占領しても混沌をもたらすことしかできないのである。エルドアンは21日、北シリア侵攻作戦を延期すると発表した[22日、共同]。アメリカ軍の撤退が完了していないこともあるが、トランプから「譲歩」を引き出したとアピールできたことでエルドアンの面目は立ち、一旦振り上げた拳を下すことができた。

トランプを擁護してきたアメリカ共和党上院議員リンゼイ・グラハムは、トランプの決定を「誤り」だと批判した[20日、ロイター]。グラハム議員はアメリカの撤退は IS の復活につながるだけでなく、アサド政権、イランの勢力拡大につながると警告した。実際アサド政権寄りの SNS アカウントは盛んにアサド政権による北シリアの再併合のプロパガンダを拡散した。



トランプによる撤退宣言を受け民主主義社会運動幹部アルダル・ハリルは「我々は外国勢力に依存したことはなく独力で革命を防衛する」と声明を出した[19日、ハワルニュース]。深刻なのはシリア南部に僅かに残るにシリア反体制派のほうだ。反体制派勢力は内戦当初より外国勢力の支援のみを頼りに今日まで生き延びてきた。PYD のようにヨルダンとの国境地帯に位置するタンフにはアメリカ軍基地があり、「穏健派」のシリア反体制派連合軍が展開する。現地の反体制派司令官によるとアメリカはタンフ基地からも撤退を始めた[21日、シャームの真珠]。現地の反体制派の「革命軍司令本部」は、アサド政権との「和解」に応じると降伏の方針を発表し北シリアへの安全な退避を求めた[25日、タス通信]。世俗的な反体制派勢力がSDFに加わることはこれまでも数多く見られた。SDFは思わぬ形で増援を得ることになった。

残された武器はどうなるのか?あるアメリカ軍指揮官は国防総省に対しSDF が有志連合軍により提供された武器を維持できるようにする提案書を提出した[29 日、バスニュース]。シリア人権監視団は 29 日、武器弾薬を満載した 200 両以上の有志連合軍のトラックがラッカに入る様子とと称する動画を公開した[29 日、

シリア人権監視団]。アメリカは部隊の撤退は行うがあくまで YPG 支援は続ける意向である。トルコは本当に北シリア侵攻を行えばアメリカ軍と同等の装備を持つ武装勢力と対峙することになる。アメリカ有力紙によると国防総省は少数の特殊部隊の運用による IS 掃討作戦の継続を検討しているという[21 日、ニューヨークタイムズ]。国防総省はあくまでクルド支援の戦略に固辞していることがわかる。彼らはトランプの気まぐれとも思える決定にその都度あの手この手で対応していくだろう。

・アサド政権との交渉

トルコの侵略の危機によりアサド政権とクルド人は共通の敵排除のための協力の機運が高まっている。 YPG 報道官シパン・ヘモは汎アラブ紙の取材に対し、シリアの国土を防衛するためアサド政権と協力する 用意があると答えた[15 日、中東]。そして PYD はトランプがシリアからの撤退を表明すると直ぐにアサド政 権との交渉を再開した。北シリアの中心都市カミシュロにアサド政権代表団が訪れ、トルコの侵略に対する 一致した対応や東部の天然資源の管理について討議したとされる[20 日、シリア人権監視団]。日本のメ ディアに散見されたアメリカに捨てられたからアサドに泣きついたという見方ではなく、アサド政権との和平 交渉を再開したという見方が正しい。両者は既に内戦の勝者として会談を繰り返している。クルド側として はアメリカ抜きのシリア和平をちらつかせることによる揺さぶりの狙いもある。

トルコの大統領府報道官は、アサド政権勢力がトルコ軍を攻撃すれば断固とした反撃を加えると警告した [24日、シリアの声]。エルドアンはアサドに共に PKK アサド政権のトルコを見る目は厳しい。レバノンのヒズボラ系新聞が 29 日報じたところによると、アサド政権は独自の「テロ支援国家・人物リスト」を作成している[30日、ユーフラテスニュース]。 KRG 次期首相になるマスルール・バルザニも含まれていた。マスルール はこれに激怒し「抑圧的かつ反クルド的政権による馬鹿げたテロに関する戯言」と声明を発した[30日、ルダウ]。この背景には KDP が後述のシリア亡命クルド人によるペシュメルガを度々シリア領内に送り込もうとしていることと、トルコの同盟勢力だと考えていることがある。マスルールはその KRG 軍事部門のトップとしてアサドに「テロ支援者」の烙印を押された。

アメリカ始め有志連合国がクルド人を支援する理由の一つは、彼らが真の意味でシリアの「反体制派」であることだ。アメリカは反体制派勢力の育成のため多くの資金、武器、訓練要員を投じたが、連中の資質を見誤ったがために失敗した。PYD—YPG は IS へ対抗する力があるのは無論のこと、シリアの民主化というアメリカ国家の大義名分を実現する政治的素質を備えていた。また北シリアは国内随一の天然資源の埋蔵量を誇り、また砂漠が多いシリアの中では肥沃な穀倉地帯である。トルコのジェイハン・パイプラインに代わる新たなパイプラインの敷設も検討されている。このような理由故にアメリカにとって蚊帳の外に置かれ一方的にアサド政権と交渉を眺めることは耐えがたいのである。

▶再燃するロジャバ・ペシュメルガ問題

ロジャバ・ペシュメルガとは PYD の支配を嫌いイラクへ逃れたクルド人が KDP の訓練を受け結成された武装勢力である。シリア内戦の勃発に伴ってシリア・アラブ軍から脱走したクルド人兵が多くを占めるとも言わ

れる。KRG 前大統領マスード・バルザニは北シリアの PYD 支配を覆し KDP の影響下に置くため、これまで度々口実を作っては入域を試みてきた。そしてトルコの侵略の危機に際しまたその下心が芽生えた。ペシュメルガ「太陽部隊」司令官は 100 名の「ロジャバ・ペシュメルガ」将校と共にシリア領内へ入り、有志連合軍の仲介のもと PYD と交渉を行った[16 日、ルダウ]。ペシュメルガ側はトルコとの国境地帯の警備を申し出たが PYD はこれを拒絶したとされる[同上]。バルザニはトルコによる北シリア侵略の危機の高まりをPYD に対する反撃の好機と見ている。トルコによるシリア侵略とクルド人の殺戮に加担しようというわけではなく、北シリアを KDP の影響下に置き平和を実現することである。マスード・バルザニが 20 日発表した声明の中で、シリアのクルド人の苦しみを「あまりに大きい」と表現したことはシリアの同胞に対する率直な心境の吐露であろう[20 日、ルダウ]。KDP の関係勢力であれば友好国トルコ軍は攻撃しないだろうという読みもある。

ジャジーラの嵐作戦(Pêngava Bagera Cizîrê)

PIS 最後の拠点

IS 最後の拠点ハジンの解放は順調に進んでいる。トルコの脅威により一時的に兵力の転進がなされていたが、一旦侵攻が棚上げされ作戦は再開された。援軍が到着したことにより SDF は病院他重要拠点を支配下に置いた[4日、シリア人権監視団]。 SDF は 14日、ハジンの大半が解放され僅かな包囲環が市内に点在するのみと発表した[14日、ロイター]。とはいえハジン攻略は早期に終結する見込みはなく、SDFは慎重に時間をかけて作戦を遂行している。

SDF は政治的理由によりIS 掃討作戦を遅らせているわけではない。まずIS が人間の盾にしている市民の犠牲をできるだけ抑えることが求められている。クルド系メディアは SDF 現地指揮官の発言から作戦の過程で 1000 人以上の市民を救出したと報じた[23 日、ユーフラテスニュース]。アサド政権や反体制派勢力、トルコのメディアは繰り返しアメリカ軍の空爆による犠牲をプロパガンダとして利用してきた。反クルド的心情を持つアラブ系住民の戦後統治を見据え好印象を与える狙いもある。拙速な作戦進行は IS の術中にはまりやすくなり、結局戦闘を徒に長引かせることになる。IS の戦術として正々堂々と抵抗することをせず敵の虚をついた奇襲で作戦の進行を乱そうとする。先月 IS の奇襲により SDF、アメリカ軍双方に大きな犠牲を強いたと報じられた。地下トンネルを使い既に解放された地域に出没する戦術はモスル攻防戦でも繰り返し見られた。

川を挟み対峙する両軍

SDF とシリア・アラブ軍他アサド政権側勢力はユーフラテス川を挟んで対峙している。SDF の代表団は 23 日モスクワを訪れロシア側と占領地の管理について協議を行った[23 日、シリア人権監視団]。ロシア側はチグリス川流域のシリア・イラク・トルコ 3 ヵ国の国境に当たる地域にシリア・アラブ軍の国境警備部隊を配備することを提案した。ユーフラテス川を「自然国境」にすることが SDF の戦略目標である。アサド政権の

圧力から自治運動を守れるとの判断がある。全土の再支配を目指すアサド政権は対岸の SDF に度々挑発行為を行ってきた。内外に向けシリア和平実現を演出に必死なロシアは、シリア内戦の 2 大勢力の一つ クルド勢力の抱き込みを図るべく現状を追認する案を出すに至った。

・破壊工作と情報戦

IS は SDF に対しテロ戦術で少しでも作戦を遅らせようと必死だ。SDF が支配下に置く油田地帯において IS の暗殺者による銃撃で SDF の兵士 3 人が死亡したとされる[11 日、シリア人権監視団]。デリゾール東部の SDF 検問所近くで爆発が起きたり、民生委員会委員が銃撃されたという事件も発生した[7 日、シリア人権 監視団]。SDF のこれまでの作戦として軍事的に IS を打倒しながら、その再来を防ぐため民生の安定に向けた施策を行ってきた。軍事的に対抗するのが困難な現状、SDF による解放を妨害するため狙いやすいところを狙っている。

現地人の SDF に対する反感、敵意を高めるための作戦も行う。デリゾール西方の集落からは SDF 兵士の 装いをした強盗が現れたとの情報が伝えられている[6 日、シリア人権監視団]。過去にも YPG を装い強 盗や略奪を行った者たちがいた。当局により逮捕され Web 上の晒し者になった。

トルコは IS と YPG は両方ともテロリストという立場を取っているが、それを裏付けようと盛んに IS との関係 疑惑をメディアに報じさせている。トルコ国営通信は 11 日、SDF が捕虜にしていた IS 司令官を金銭と引き 換えに釈放したと報じた[11 日、アナトリア通信]。 SDF はマンビジュ解放戦やラッカ解放戦の折、市民の被 害を減らすため、IS に猶予を与え撤退させるということをしてきた。トルコはそういった情報を傘下の反体制 派勢力から聞きつけ脚色しているようである。

マンビジュ(Minbic)

トルコの軍事行動に対する警備行動

トルコ軍は2日、アメリカ軍と合同で治安維持訓練を行ったと発表した[2日、アナトリア通信]。トルコ軍はマンビジュからSDFを撤退させ、アメリカ、トルコ両国で防衛する合意に基づいて行動したを声明を発表した。アメリカのシリア特別大使は年末までにマンビジュ合意を進展させるとリップサービスをした[7日、アナトリア通信]。アメリカが真に警戒しているのはトルコによる挑発だ。トランプがシリア撤退を発表したことによる、トルコ側の軽挙妄動を避けるべく、SDFに属するマンビジュ軍事委員会(MMC¹¹)と協調を続けている。MMCはトランプによる発表直後にも警備活動のため出動するアメリカ軍部隊の動画を投稿した[21日、MMC]。現地の有志連合司令部はトルコの軍事行動を憂慮し防衛体制を整えるためMMC支配下の地域を視察した[24日、シリア人権監視団]。この際アメリカ軍はヘリコプターを出動させたとの情報がある[23日、シリア人権監視団]。トルコ軍と傘下勢力の威嚇に自制を促している。アメリカ軍との直接衝突を避けたいトルコは傘下勢力とMMCを衝突させることで介入の機会を作ろうとした。トルコの傘下勢力は28日、部隊を

¹¹ 英語名 Manbij Military Council の略。クルド語では Meclîsa(アラビア語由来で会議の意) Leşkerî(兵士) ya Minbicê(マンビジュ)。彼ら自身はアラビア語名 almajlis(会議) manbij leaskari(兵士)を用いる。正式名称は「マンビジュ並びに郊外防衛のための軍事委員会」。

境界線に移動させマンビジュ攻勢に向け準備は完了したと発言した、[28 日、ロイター]。トルコ傘下のジハーディスト、ハムザ師団はトルコ語で兵力をマンビジュとの境界線へ配備したと発表した[31 日、ハムザ師団]。アラビア語話者の同胞向けではなくアンカラ向けのアピールであり、シリアウォッチャーにその傭兵ぶりを見せつけた。有志連合軍は万が一、トルコの傘下勢力が暴発する場合に備えて MMC の防衛力も高めている。トルコメディアは、MMC への軍事支援のためマンビジュに 150 台以上のアメリカ軍の車両が入ったと報じた[1 日、トルコ新聞]。

・アサド政権部隊の駐留

トルコによる侵攻が現実味を帯びてきたことでアサド政権もマンビジュの支配権奪還に向けて動いた。シリア・アラブ軍は28日マンビジュ近郊に軍を展開した[28日、ロイター]。トルコが実際にマンビジュを占領するとアルバーブ、ジャラブルス、そしてアフリン同様奪還が困難になる。みすみす要衝を渡すつもりはないばかりか、SDFから支配権を奪おうと考えている。マンビジュがアラブ系住民の町ということで正当性を主張しやすいこともある。アサド政権による占領を望む住民の声が盛んに喧伝された。

トルコが即時の作戦を実施しない見込みであることから一旦撤退した[30 日、シリア人権監視団]。またマンビジュ近郊のダムをアサド政権側へ引き渡したという噂が流れたが SDF は即座にこれを否定した[30 日、シリア人権監視団]。

アフリン(Efrîn)

アフリン地域内でトルコへの<mark>抵抗運</mark>動は「オリーブの怒り作戦室」に代わり「アフリン解</mark>放軍(HRE¹²)」の旗の下行われるようになっている。

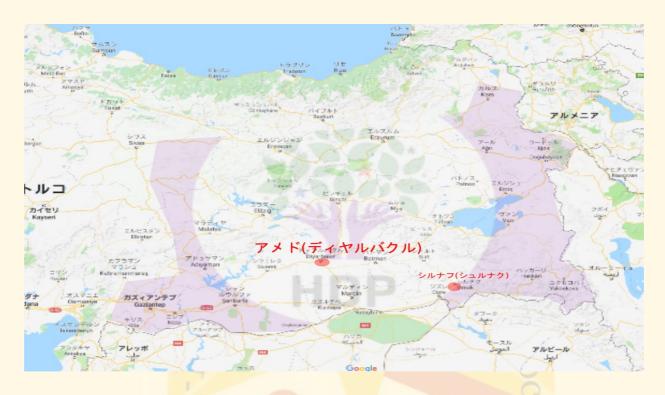


トルコ軍は金でいくらでも「補充」のきくジハーディストたちより、自国の兵士の犠牲に頭を抱えている。トルコ国営通信は 13 日、アフリンで YPG による「テロ活動」で兵士一名が「殉職」したと報じた[13 日、アナトリア通信]。 HRE は 18 日にもトルコ軍の拠点に対しゲリラ攻撃を行い 1 名を殺害、6 名を負傷させたと発表した[21 日、ユーフラテスニュース]。トルコ側はゲリラ活動に業を煮やしている。トルコ軍は 13 日、隣接するSDF 占領下のタル・リファットに砲撃を行い SDF 側に5名の負傷者が出た[13 日、シリア人権監視団]。ロシアはトルコ側にタル・リファットへの進出を認めておらず、本格的な HRE 掃討は不可能になっている。

¹² クルド語の組織名、Hêzên(軍) Rizgariya(解放) Efrînê の略。

北クルディスタン (トルコ領南東部)

Bakurê Kurdistanê



クルド人への弾圧

・抵抗の象徴「レイラ・ギュ<mark>ヴェン</mark>」

クルド系政党人民民主党(HDP¹³)のハッキャリ選出女性議員レイラ・ギュヴェンは、トルコのアフリン侵略に 反対する発言をしたことでテロ支援容疑をかけられ、今年 1 月末に逮捕されて以来収監されている。先月 7 日より PKK 指導者オジャランの孤立化に抗議するハンガーストライキを開始した。世界各地のクルド人 たちは彼女を釈放を求め抗議運動を行い、彼女は新たな抵抗の象徴となった。HDP 共同代表のペルヴィ ン・バルダンは 3 日、レイラ・ギュヴェンの解放を求め収監されている HDP 議員たちもハンガーストライキを 開始したと発表した[3 日、トルコ詳報]。断食開始から 49 日目を迎え健康悪化が懸念される中審理が行わ れた[26 日、ユーフラテスニュース]。

トランプがシリアからの撤退を表明した時、HDP 共同代表のテメリはトルコもまたシリアから撤退するべき だと発言した[20 日、ユーフラテスニュース]。トルコ軍のシリアでの活動はアサド政権や有志連合各国から 承認されたものではなく、それを排除する力が無いのをいいことにしているだけだ。テメリの発言は全く正 論である。レイラ・ギュヴェンはアフリン侵略を批判して投獄されたことを考えると、懸念を抱かざるを得な い。

¹³ トルコ語の党名、Halkların(諸人民または国民の) Demokratik(民主主義) Partisi(党)の略。Halk はアラビア語で人民を意味する halq に由来する。

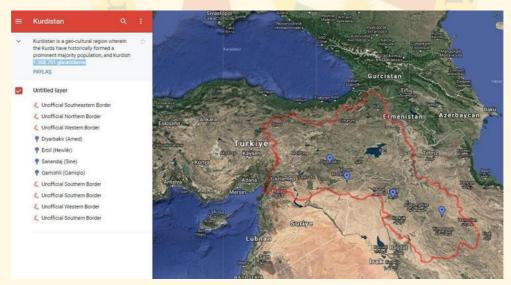
ウルド系政党への不当逮捕攻勢

エルドアン政権によるクルド系政党への弾圧はもはや年中行事と化しており、証拠不十分な「テロ容疑」による摘発の横行という異常事態が常態化している。来年3月の地方選挙実施に備えクルド系政党の組織破壊を目論み摘発を加速させている。トルコ当局は5日、アメド(ディヤルバクル)とハッキャリでHDPと民主地域党(DBP¹⁴)に対する摘発を行った[5日、ユーフラテスニュース]。アメド、ハッキャリともそれぞれの地域代表が身柄拘束された模様だ。さらに10日にはHDPアメド支部が捜査を受け26人が逮捕された[11日、バスニュース]。上記いずれの弾圧も、レイラ・ギュヴェンのハンガーストライキに連帯しようという動きに当局が対応したとみられている。

アラブ系ニュースサイトは9日、政権与党内部の分裂的傾向を指摘するコラムを投稿した[9日、アラブウィークリー]。エルドアンの師であり独裁的傾向を諫める発言を繰り返してきた元大統領ギュルもエルドアンにとって目の上の瘤だ。エルドアンの長子ビラルと娘婿の財務相ベラト・アルバイラクもそれぞれ派閥を率いるとされる。政権与党内の亀裂を糊塗するためにもクルド系政党弾圧による「テロと戦う大統領」演出に必死なことが推測される。

・クルディスタン国家への恐怖

トルコ政府は24日、グーグルに対し同社のサービス内で「クルディスタン」と表示される領域からトルコ領 を外すよう要求した[25日、「自由」紙]。クルディスタン領域とはあくまで「文化地理学」的ものであり現在の 各国領土は関係ない。言うなれば民族分布図のようなものである。



野党寄り新聞は、「ローザンヌ条約が約束したクルディスタン国家は潰えた、しかしリスクは消えていない」という記事を公開した[23 日、「共和国」紙]。あるジャーナリストが個人ブログでトランプのシリア撤退発言に関して公開した記事をもとにしている。アメリカがトルコとの対立を厭わずクルド側に与していることを念頭に置きつつ、中東各国とクルド勢力の関わりを地政学的に分析したものである。

クルド人が中東で確固とした地位を築いてきたことに異論を挟む者はいないとて、クルディスタン国家設立のリスクを口にするのはいささか飛躍している。PKK は始めからクルディスタン独立を主要目的にはしてお

¹⁴ トルコ語の党名、Demokratik(民主主義) Bölgeler(諸地域の) Partisi の略。クルド語では Partiya(党) Herêman(諸地域の) a Demokratîk(民主主義)。

らず、指導者オジャランは投獄されてから一層その立場を鮮明にした。また、最大のクルド系政党 HDP も諸民族の融和を唱え、その枠内でクルド人の自由を実現しようとしている。

ではトルコ人はなぜ領土喪失に怯えているのか?現在のトルコの領土は改めて考えると非常にいびつなのであり、トルコ人も実はそのことを自覚している。我々は世界史の授業においてローザンヌ条約が想定したアナトリア分割案を列強による領土的野心の産物と習う。いわばトルコ政府の言い分を書き連ねた内容で、アナトリアの他民族の民族自決権は考慮されていない。アナトリアにおける民族自決権を踏みにじったのがトルコだからである。1915年のアルメニア人大虐殺がなければいわゆる「北クルディスタン」はアルメニア国家の一部になるはずであった。そして「解放戦争」の名の下にクルド人を動員しギリシャ軍との戦争に勝ちセーヴル条約締結にこぎ着けた。その時クルディスタンの自治領化は反故にされ、クルド人との絶え間ない戦争が続くことになった。トルコ人は歴史を直視し他民族に自治権を与え、アナトリアを本来あるべき姿に戻せば後ろめたさに苛まれなくなるのである。

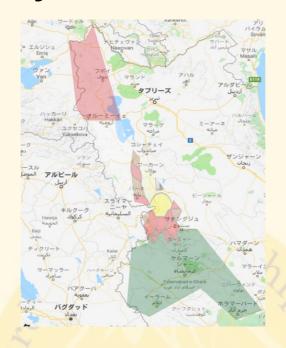
東地中海の緊張

クルド人は IS 問題を巡りトルコの伝統的同盟国アメリカを味方に引き入れた。また、トルコの侵略に直面するシリアのアサド政権、イラクのシーア政権も対トルコではクルド人と共闘する。過去のリポートで論じたように、トルコとの紛争を抱える地中海諸国もクルド人と共闘の可能性がある。ギリシャの新聞は「エーゲ海では毎日戦争が起きている」という海軍提督の発言を引用した[1日、情況]。トルコ艦艇による領海侵犯や挑発行為が激増しているのである。トルコは独裁色を強めるにつれ対外的侵略姿勢を活発にしている。それはシリアやイラクで散々見せつけられてきた。巨大なガス田が眠るこの海域でも野心をみなぎらせる。エルドアンはキプロスがエーゲ海のガス田から利益を得るのを許容しないと発言した[2日、キプロスメール]。キプロスは北キプロスの権利を無視しているという主張である。北キプロスはトルコ系住民が多数を占め1974年にトルコ軍が軍事介入して以来、トルコの傀儡国家が統治している。キプロス大統領は12日、ストラスブールのヨーロッパ議会で演説した[12日、イ・カシメリニ]。東地中海においてキプロスがガス田開発を主導することはEUの利益になることを力説した。トルコが掘削を強行していることに対しEUに救援を求める格好になった。

トルコとパレスチナ問題で対立するイスラエルも本件でギリシャ陣営に与している。キプロス、ギリシャ、イスラエルは 20 日、東地中海パイプラインについて合意した[20 日、イ・カシメリニ]。エルドアンはクルド人への弾圧を棚に上げて盛んにパレスチナ問題について発言し、トルコメディアはイスラエル軍の「蛮行」を日々議論している。トルコはパレスチナと領土を接しておらず直接的な利害関係はない。そのため有識者はムスリム国家の盟主を任ずるがゆえに、パレスチナに同情的であると解説する。実際はその裏に天然資源への飽くなき野心がある。

東クルディスタン(イラン領西部)

Rojihilata Kurdistanê



クルド人労働者の虐殺

コルバル殺害

イラン経済が逼迫する中特に開発が遅れ仕事が少ないクルディスタンでは、多くのクルド人がイラクのクルディスタン地域への荷運びに従事しなければいけない現状がある。イラン当局は経済的支援の代わりに鉛弾でこの問題を解決しようとしている。イランの警備兵は14日、コルバルに銃撃し2人が死亡しもう2人負傷した[15日、ユーフラテスニュース]。他にも負傷者が出た銃撃事件は多数発生している。

・映画監督の焼死

バフマン・ゴバディ程ではないが、コルバルに関する映画を制作していたクルド人映画監督が不審死した。 7日、<u>燃え盛る自動車の中から彼と兄弟が焼死体が発見</u>された[9日、ユーフラテスニュース]。両人とも手錠をされていたことが判明している。市街地から離れているとこでの不審火、革命防衛隊により「処刑」された線が濃厚だ。直近で人権活動家の不審死も起こっており、活動家を狙った殺害の一環であるとクルド人は受け止めている。わざと人目につくやり方で焼殺という残酷な方法を選んだことは、見せしめであることを示唆する。

文責:一般社団法人日本クルド友好協会 研究員 並木宜史